

幻のマツカワ「天然」稚魚、ついに登別市沿岸で発見！

はじめに

海水魚の中でも小さな卵を大量に産む種類の魚は、仔稚魚期にその大部分が死んでしまうため、この時期の生き残りが資源量の増減に直接影響すると考えられています。そのため、対象魚種が仔稚魚期にどのような場所（成育場といいます）で、どのように暮らしているか（餌や敵となる生物など・初期生活史といいます）その特徴を知ることが、資源管理や沿岸・浅海域の環境保全をどのように進めていくか考える上でとても重要です。

漁業や釣りの対象種として重要なマツカワは、全長 80cm にまで成長する大型のカレイ類です。本種は過去に急速に数が減って漁獲量が激減したため、2006 年以降、毎年 100 万尾の人工種苗放流が実施されており、現在漁獲されているマツカワのほぼ全ては人工種苗に由来します。一方で人工種苗ではない天然海域生まれの個体（天然魚）の初期生活史についてはほとんど明らかになっていません。本種の産卵場は本州の常磐沖（産卵期：2～4 月）と推定されていることから、ふ化した仔魚は北海道太平洋沿岸域に輸送されて、海底付近に生活場所を移し（着底といいます）成長すると考えられますが、遙か常磐沖からどのように北海道までやってくるのかは全くわかっていません。そこでまずは、天然仔稚魚が「いつ・どこに」出現するのかを調査しました。

○登別市富浦湾での小型地曳網調査

調査した登別市富浦湾は登別漁港（富浦地区）に隣接し、栽培水産試験場からは車で 40 分ほどの場所に位置します。この場所は蘭法華岬が太平洋に向けて張り出しており、その中程から漁港の堤防が伸びているため、堤防より内側は波風の影響を受けにくい静謐な砂浜（水深 0～1m）が形成されています。

2023 年 8 月 1 日、この砂浜帯にて小型地曳網（網幅 5m）を海岸線と平行に約 100m 曳いて（写真 1）獲れた魚の尾数を種ごとに記録しました。



写真 1 採集調査風景

○調査結果

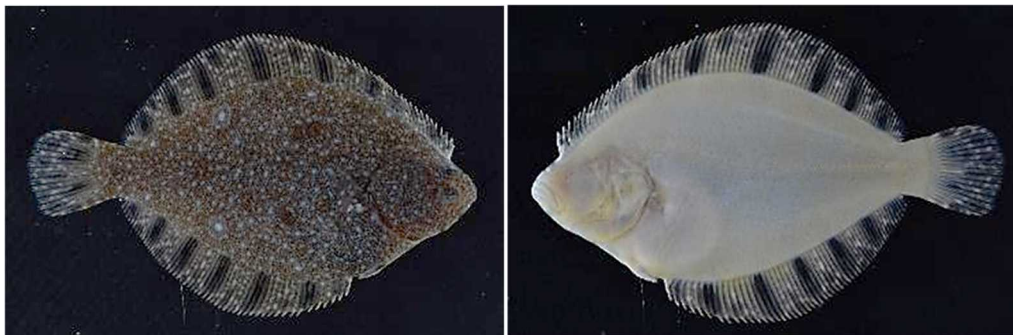


写真 2 登別市富浦湾で採集されたマツカワ天然稚魚
（全長 74.2mm、左：有眼側、右：無眼側）

この調査では、マツカワ稚魚 4 個体（全長 66-75mm：この年ふ化した魚と考えられます）が採集されました（写真 2）。この海域の人工種苗放流は調査の実施後（2023 年 8 月 9 日以降）に行われたこと、人工種苗の体色の特徴（無眼側の黒ずみ・鰭の縞模様消失）が一切見られないことから、この 4 尾の稚魚は天然魚であると判断されます。

なお、同所で採集された他の魚種（尾数）は、マガレイ（2）、イシガレイ（1）、ワカサギ（4）、チカ（9）、クロソイ（1）、ヒメジ（1）、アシシロハゼ（1）、タケギンポ（2）、アミメハギ（1）、マフグ（11）が確認されました。

○今回の採集結果からわかること

釧路水産試験場・栽培水産試験場では、2012 年以降北海道太平洋沿岸域各所でマツカワ天然稚魚の分布調査を実施してきました。その結果、道東の浜中町（2012～2017 年：7～9 月）、えりも町（2017 年：8 月）にて天然稚魚が採集されています。今回、登別市で天然稚魚が初めて採集されたことから、釧路～日高海域だけでなく胆振も含めた幅広い海域が天然稚魚の成育場となっていることが考えられます（図 1）。

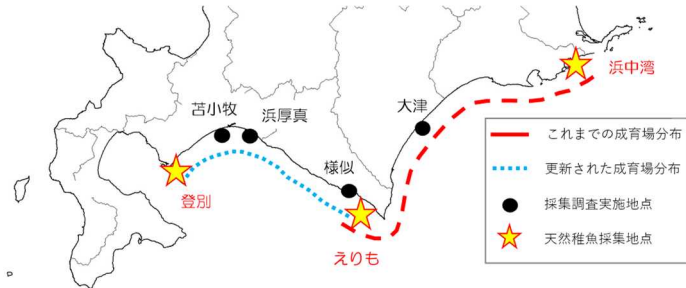


図 1 北海道でのマツカワ天然稚魚採集調査結果

カレイ類の多くの種で成育場は、産卵場よりも浅く、河川内から沖合域まで様々な環境に形成されることが知られています。本調査も含めてマツカワ天然稚魚が採集された地点の共通点として、岬や堤防に囲まれた水深の浅い穏やかな砂浜帯という特徴があります。放流直後の人工種苗を追跡した調査でも、稚魚は水深 5m 以浅に分布することが報告されています。これらの結果から、本種はその初期生活史において、より陸域に近く浅い砂浜を成育場として好むと考えられます。

おわりに

北海道えりも以西太平洋海域におけるマツカワ人工種苗 100 万尾の放流は、開始から 18 年が経過しようとしています。この期間の放流効果は顕著であり、ほぼ皆無に近かった全道のマツカワ漁獲量は年間 150t 前後まで増加しました。そこで次の段階として、放流魚を含めた親魚の自然繁殖による資源の自立再生が期待されています。天然の稚魚がいることを確認し、成育場の分布域を更新した今回の調査結果は、この点からも貴重な情報となります。今後は、地曳網調査を月 1 回頻度で継続的に実施し「成育場に接岸・着底したマツカワ天然仔稚魚の出現（移出）・成長・食性」といった生態学的特性を明らかにしていきたいと考えています。

○参考文献

- 萱場隆昭・佐々木正義（2014）快拳！マツカワ天然発生稚魚を発見！釧路水試だより. No. 94. 2-5
- 吉村圭三（2019）えりも以西海域で初めて採集されたマツカワ天然稚魚. 試験研究は今. No. 851
- 和田敏裕（2007）異体類の接岸着底機構-カレイ科 5 種の形態発育と低塩分適応-. Sessile Organisms 24(2). 81-88